

月刊「ワークホームだより」1月号

発行:2025年 12月 24日 発行者:ワークホーム高砂
〒676-0081 兵庫県高砂市伊保町中筋 1331
TEL(079)449-0701 FAX(079)449-4111
http://workhome-takasago.org/ E-mail workhome@nifty.com

Instagram



@WORKHOMETAKASAGO



支援者視点から見る一泊旅行

ワークホーム高砂 サービス管理責任者
楠 英充

今年も11月21日、22日の2日間で一泊旅行へ行ってきました。今回の行き先は淡路島で、開発が進む西海岸にある洲本市五色町で宿泊しました。五色町は開発が進みおしゃれな飲食店が立ち並ぶエリアからは少し離れた場所にあり、豊かな自然が残る静かな場所です。そんなところにあるウェルネスパーク五色でロッジを6棟借りての宿泊を行いました。今回借りたロッジは広大な敷地のウェルネスパーク内でも小高い丘の上にあり、7棟中、6棟を借り、借りていない1棟は宿泊客が無かったため、一帯はさしずめ「ワークホーム村」といった感じでした。淡路はなさじき・イングランドの丘にも訪れ、天候にも恵まれ楽しく帰ってくることができました。

一泊旅行については、日頃の作業を忘れ、みんなで親睦を深め、労をねぎらいリフレッシュしてまた作業を頑張るという目的でやっておりますが、我々、日中活動系施設の支援者にとっては気づきの場であり、勉強の場であり、色んな事を発見し、再確認できる貴重な時間です。特に今回の旅行では、ロッジという宿泊形態をとり、朝食も自分たちで自炊するという形にしたので、いつも以上に新しい発見、新しい気づきがありました。では何を発見し、何を再確認したのかといいますと、日中活動系施設の支援者は、日中の様子しか見ることはありません。特にワークホームでは作業を活動の軸に据えている為、大半の時間を利用者さんとともに作業をして過ごすことが常です。その為、入浴、睡眠といった場面を見られることは本当に貴重な時間となります。私が受け持った棟では、まず寝る場所をみんなで決めてもらいました。皆さん2階ロフトで寝たいという事だったので、どうすれば全員の布団を引くことができるか話し合ってもらいました。作業の時は控えめな利用者さんも積極的に案を出し、無事全員がロフトで寝る事ができました。次は自分の寝床の準備です。作業ではシーツをきれいに整理できる利用者さんが悪戦苦闘しながらシーツ掛けを行っていました。入浴では作業をテキパキとこなす利用者さんが上手く洗えておらず、再度洗い直しをしたりしながら、みんなで大きなお風呂につかりました。朝食作りでは、普段あまり手先が器用ではないと思っていた利用者さんが上手に包丁を使える事に驚き、振り返ると何も言っていないのにお皿が並べられ、配膳準備が整っていてまた驚き、みんなで作った朝食を美味しくいただきました。

このような機会は、これまで作業場面では見つける事ができなかった利用者さんの強みを引き出し、これまでできるからと支援に力を入れていなかった部分を再確認させてくれます。何よりいつもの作業場面とは違う利用者さんの表情を見ることができ本当に良かったです。

昼食のハンバーガーに力を入れすぎ、夕食がちょっと寂しかったのは反省しています。(笑)
また、みんなで楽しく旅行に行けたらと思っています。

1月の予定



1月 5日(月) 仕事始め

1月10日(土) 初詣

1月14日(水) 工賃支給日

1月24日(土) お楽しみ会



今年一年を振り返って

もうすぐ1年が終わろうとしています。

新年が始まったころはこれからの1年間というものを長く感じるものですが、終わりが近づくにつれ早かったなあと感じてしまいます。それはなぜか。この1年間が充実していた証ではないでしょうか。

皆さんは今年の1年間は どうでしたか？早かったなあと感じる人もいれば、長かったと感じる人もいるでしょう。

私はこの1年間は早く感じました。正規職員になって1年も経っていませんが作業や行事、そして利用者さんの支援等に向き合っていたらあっという間に1年が過ぎようとしていました(笑)

来年もあっという間に1年が終わったなと感じられるほどの充実感で過ごしてみよう！(吉永)



法人事例研究会

12月6日(土)にユアアイ帆っとセンターで第3回法人事例研究会がありました。今回の主幹事業所は児童療育センターあかりが担当し、6名の職員が各取り組み6つの事例を発表してくださいました。今回も助言者としてノートルダム清心女子大学人間生活学部児童学科准教授 青山新吾先生にお越しいただき、各ケースへの的確なコメント、好評をいただきました。

どのケースも放課後デイサービスや児童発達センターならではのマンツーマン療育、個別支援で職員がどれだけ丁寧に真剣に各児童たちと向き合っているのかが伺え、とても良い刺激になりました。ワークホームをはじめ、就労支援の現場ではどうしても集団支援が中心になってしまいがちですが、そんな中でも個別支援を意識する場面もあるので今回の事例発表で受けた刺激を忘れず常に新しい視点をもって支援に取り組みたいと思います。(重田)

今回の担当は長瀬でした



一泊旅行 ～in 淡路島～



11月21日(金)～22日(土)は一泊旅行で淡路島へ行きました。1日目は午前中は作業を行い、午後からの出発でした。花さじきとイングランドの丘では班ごとに自由行動を行い、植物や動物を観賞したりアトラクションを体験したりとそれぞれ楽しんでおられました。宿泊先のウェルネスパークでは今までの旅行にはなかった朝食づくりにチャレンジしました。みんなで協力して作った朝食はすごくおいしく、楽しい時間を過ごすことができました。

帰りのサービスエリアでお土産を購入しワークホームへ。みなさんかなり疲れている様子でしたが、怪我や事故なく帰ってこられてよかったです。解散予定時刻を大幅に過ぎての到着となってしまう、保護者のみなさまにはご迷惑をおかけしましたが、温かく迎えてくださりありがとうございました。(新山)

